

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

63

収蔵資料品展

小平瀉天満宮の
御宝物

福島県立博物館



文字絵渡唐天神像

年が明ければ、受験生にとっては受験シーズン本番の到来です。この時期、受験生の熱い願いを一手に引き受けてくれるのが天神様です。学問の神様として誰もが知っているこの天神様をまつる神社が天満宮です。諺言により九州の大宰府に左遷され非業の死を迎えた秀才菅原道真の霊魂が天神様であるということも、皆さんよくご存じだと思います。

日本の神の中でも最も知られた存在である天神様ですが、天神信仰は実は受験の神様道真の御利益だけではなく、雷神、御霊など多くの信仰の要素が混じりあった大変複雑な信仰なのです。

天神様、天満宮は日本全国各地にあります。小平潟天満宮は会津地方を代表する天満宮です。猪苗代湖の北のほとり磐梯山を眺める白砂青松の地にあり、風光明媚なその場所は周辺でも有数の景勝地です。

同社の始まりは天曆二年(九四六)と伝えられています。小平潟天満宮の縁起によると、天神様の神像を担いで諸国を巡っていた神官が猪苗代湖のほとりで休んでいると、急に神像が重くなり、これは天神の思召しと悟った神官がこの地に社を建てたのが同社の始まりとされています。

戦国時代の会津の武将菅名氏をはじめ江戸時代の会津藩主も篤く信仰し、さまざまな宝物が奉納され次第に社殿が整えられました。

小平潟天満宮には代々奉納されてきた多くの奉納物が遺されています。平成十一年猪苗代町教育委員会と県立博物館が調査を行い、保存管理に万全を期す上から県立博物館に寄託されました。

その内容は一条天皇筆と伝えられる天神の神号書幅、さまざまな天神画像、室町時代の連歌師猪苗代兼載筆の和歌書巻、会津藩主保科正之の和歌書幅、会津藩重臣たちの和歌短冊、硯、柄鏡、多数の祝詞、誓詞などです。

長く社殿に秘蔵されてきた御宝物が初めて広く一般に公開されます。是非ご覧ください。

主な出品資料

1 伝一条天皇筆天神名号「太政威徳天神」

…天神の神号を書す一行書。この書自体が御神体と言えます。太政威徳天神は天神の古い呼び名です。

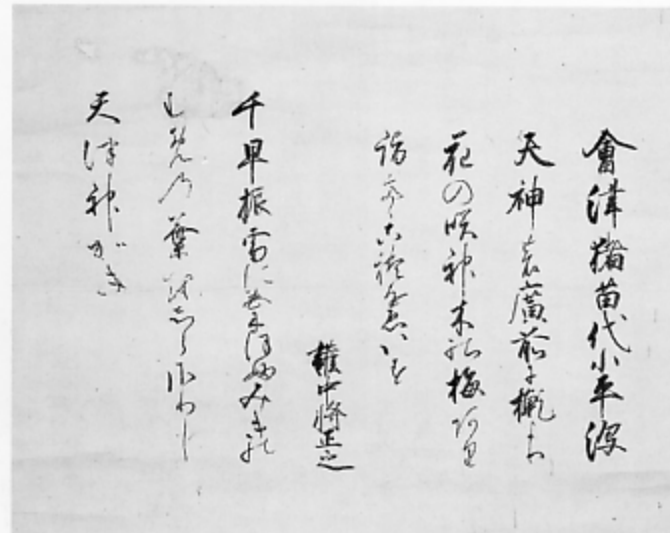
収蔵資料品展

小平潟天満宮の御宝物

●会期 平成14年1月19日(土)～3月10日(日)



網敷天神像



保科正之和歌書

2 猪苗代兼載書「八代集秀逸」

…猪苗代兼載は中世にさかんに行われた文芸である連歌の名手で、猪苗代に生まれました。藤原定家が有名な歌集から選んだ和歌を兼載が書いています。

3 「保科正之和歌書」

…保科正之は会津藩松平家の祖で、江戸詰めが長く、数度しかなかったお国入りの際に参詣するなど小平湯天満宮を篤く信仰し、保護しました。

4 「綱敷天神像」

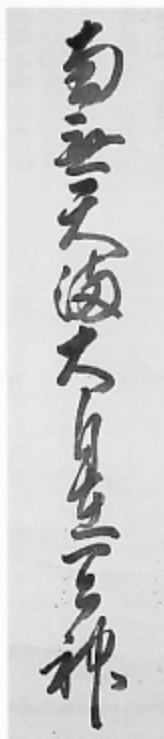
…天神様の画像はさまざまな種類がありますが、綱敷天神は大宰府への左遷途中の船上で敷物の代わりに船の綱を巻いて敷いたという説話を描いています。その表情は怒りに満ちています。

5 硯（伝菅原道真愛用）

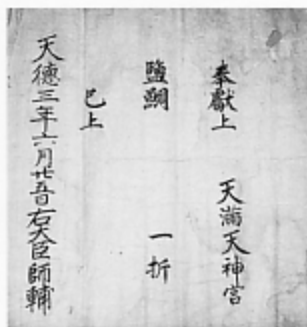
…学問、書道、和歌などの上達を祈る時にも天神様は頼りにされました。硯のような文房具も書の上達や学問の向上を願って奉納されたのでしょうか。



伝一条天皇筆
天神名号
「太政威徳天神」



伝後奈良天皇筆
天神名号
「南無天満大自在天神」



天徳三年献上目録

■収蔵資料品展（小平湯天満宮の御宝物）は平成一四年一月一九日（土）から三月一〇日（日）まで開催しています。常設展観覧料でご覧いただけます。



猪苗代湖と小平湯・天神浜を臨む

収蔵資料品展関連行事のお知らせ

○記念講演会

「小平湯天満宮の御宝物」

講師 猪苗代町文化財保護審議委員長

榎原源隆氏

日時 二月一七日（日）午後二時

場所 当館講堂

講演要旨 企画展記念講演会

平成二十三年一月八日(月祝)
平成二十三年一月二日(日)

「行列絵図にみる武家風俗」 「奥羽大名と幕府役人の行列」

講師 歴史研究家 藤本正行氏
講師 福島県史学会会長 菅田 宏氏

「行列絵図にみる武家風俗」

武家の行列は、主君へのあいさつ、巡視、警備、社参、出陣など様々な目的で行われるが、常に示威運動の要素(自己・自家顕示、主君への忠誠心、同輩への対抗意識、庶民や敵軍への威圧など)を伴っている。それらが行列の編成や道具立てに、様々な影響を与えている。また、武家行列を描いた絵画の史料としての有効性と危うさ、そして面白さを知って頂きたい。

1. 平時の武家行列の変遷
 - (1) 室町末期(一六世紀中期)の傾向
 - (2) 室町末期→江戸初期(一六世紀中期→一七世紀前期)
 - (3) 統一化の原因
 - (4) 近世(一七世紀以後)
 2. 平時と戦時の行列のちがいは、
(1) 江戸初期までの行軍の隊形 即座に戦闘態勢がとれる。
(2) 江戸時代の大名行列の隊形 行進し易いが戦闘態勢がとりにくい。
(3) 描かれた大名行列の虚実
- 今回の企画展では、江戸後期以後の行列絵図が展示の中心になったため、それ以前の武家行列・大名行列のようすや、江戸後期にいたる歴史の変遷までをきちんと表現することができなかった。講演の内容は、このような点を補うものであり、また「洛中洛外図屏風」その他多様な絵画資料を加えて、わかりやすくお話しいただいた。

また、講演会終了後、展示室で列品の解説をしていただいた。武器・武具類の専門家による解説はたいへん好評だった。



「奥羽大名と幕府役人の行列」

寛永一二年(一六三五) 武家諸法度が改定され、参勤交代が制度化された。その直前に、幕府は諸国巡見使を派遣して大名の実態を調査させており、その成果が参勤交代の制度化に反映している。幕府の巡見使や代官の行列は、大名行列とは人数や編成・ルートなども大きく異なっていた。とくに古川古松軒が随行した奥羽松前巡見使や、桑折・塙代官となった寺西氏の実例を紹介した。

1. 奥羽大名の参勤交代
 - (1) 江戸幕府と参勤交代の制度化
 - (2) 奥羽大名の参勤交代
 2. 幕府役人の行列
 - (1) 御国目付(監国使)の行列
 - (2) 奥羽松前巡見使の行列
 - (3) 御料巡見使の行列
 - (4) 陸奥代官の行列
- 今回の企画展の中では、参勤交代の制度的な面は十分に説明しきれなかった。また国目付や巡見使・代官など幕府役人の行列のようすはまったくとりあげることができなかった。講演は、これらの欠を補うような興味深い内容であった。

(要約 高橋 充)



資料の展示・保管環境について

松田隆嗣 保存担当

資料を展示あるいは保管する場合、その資料を置く場所の環境が資料に大きな影響を与えることから展示や保管にあたってはさまざまな配慮を行っています。一般的には温度や湿度、照度などのコントロールが中心となりますが、他のさまざまな要因についても対処する必要があります。特に近年問題となっているものにさまざまな素材から発生する各種のガスの問題です。博物館の建築に用いられたコンクリートから発生するアルカリ性物質の問題については以前から研究されており比較的よく知られていますが、アルカリ性物質以外のガスの問題については博物館関係者でもあまり知られていないのが現状です。

話しは少し変わりますが一般的な住宅のことで最近話題となっていることにシックハウス症候群のことがあります。建材として用いられる化粧板や集成材などから発生するホルムアルデヒドなどの化学物質が原因であることは知られていますが、もう一つの要因として一般の住宅



写真一 展示ケース内の各種ガス濃度の調査。資料の横に3個並んで集めるサンプル用のガス捕集器が写っています。

に空調設備が普及したことにより住宅自体が高気密化し室内に外気の流入が極めて少なく

滞留するにも大気中の汚染物質がたまりやすくなるという問題も出てきています。ただ、博物館でこのようなガスが発生した場合、人ばかりでなく資料に対する影響を考慮する必要があります。

この発生原因としてはさまざまな物が考えられます。博物館を建てる時に用いた各種の素材ばかりでなく模型や資料自体からもさまざまなガスが発生することによるものと思われれます。博物館の建築素材として金属やコンクリート、ガラス、岩石、天然木、集成材、化粧板、合板、布、ペイントなどさまざまな素材が用いられます。一般の住宅と同様に集成材、化粧板、合板などからは、ホルマリンの発生の可能性が、また、一般の住宅では問題とされてはいませんがベイスギ、スギ、ヒノキといった天然の木からも酢酸や樹脂などが発生することが調べられており天然の素材をふんだんに使ったからといって注意を要するのが実状です。

なぜ、博物館では一般の住宅では問題視されないような天然木から発生する揮発性物質が問題になるのかと言いますと、その要因として二つの点が上げられます。第一点として博物館では資料を保管あるいは展示して



写真二 収蔵庫内における害虫調査。壁に3個つり下げているものが誘引タイプの捕虫器（フェロモントラップといわれるもの）が写っています。

いる場所が一般の住宅のとは比較にならないほど高気密であるという点です。建物自体も高気密になっていますが、収蔵庫や展示ケースは建物以上に高気密になっているからです。湿度の変化に影響を受けやすい資料の場合、外部の湿度が急に変化してもケースの内部の湿度が変化しないように調湿剤を入れた密閉型のケースに展示されることが普通ですが、このようなケースは密閉性が高く空気の出入りが極めて少ないためケース内で発生したガスはケース外に抜けずに滞留し、ガス濃度の上昇を起こします。湿度の影響を受けにくくするためのケースが場合によっては資料に影響を及ぼすことを助けることにもなります。このガスの発生源としては模型、ケースの壁や床の素材、資料を展示するための台や資料自体なども発生源となります。また、保管のために資料を木の箱やタンスなどに入れて保管した場合、場合によっては木から発生したガスの影響を受けることもあります。このように博物館では、人体にたいする影響と共に資料に対する影響も大きな問題です。

第二の点として分析用の機器と分析技術の進歩があります。以前は非常に手間と時間がかかっていた分析も技術の進歩により従来とは比較にならないほど簡便でかつ高精度の分析が可能になったことです。

今、博物館で問題となっているこれらのガスの濃度としては、数 $100 \sim 1000$ ppbといった濃度で1ppbは1億分の1といった濃度です。私たちが日常よく使うパーセントという単位が100分の1を表わすのに比較して資料の保存においては極めて薄い濃度のガスを問題にしています。しかし、ガスの濃度は比較的簡便に測定できませんが、このような薄い濃度のガスを効果的に除く方法がないのが現状です。通常は、活性炭や脱臭フィルターを使って強制的にガスを活性炭層やフィルター内を通過させガスの除去を行っています。展示ケースや木製の引き出しではそのようなことは不可能であり、ガスの効果的な除去法については現在調査している段階です。

Q.. 去年の秋の企画展で「立版古」という紙でつくられたお芝居の舞台のような資料が展示されていましたが、どのようなものなのでしょうか？ (主婦 四七歳)

A.. 「立版古」という呼び方は関西地方での俗称で、「組み上げ絵」とか「組み上げ灯籠」・「切組み灯籠」と呼ばれるものでペーパーモデル(ペーパーモデル・ブッチャー)として大変すぐれたものです。錦絵の中に刷り込まれた芝居の人物や建物などの各部品を切り抜き台紙の上に糊で張り合わせて遊ぶ紙細工です。夏の風物誌でもあり、江戸時代、三都(京・大坂・江戸)の商家では店先の縁台や床几に飾り、道行く人々の目を惹き寄せました。その起源は、盂蘭盆会で使用される盆灯籠が次第に玩具化していったものと考えられており、「武江年表」に

たてばんこ 立版古 (組み上げ絵)

よれば江戸後期の寛政・享和年間(一七八九〜一八〇四)には葛飾北斎や北尾政美などの絵師が、その製作に当たっていたことが記録に残っています。天保期(一八三〇〜一八四四)には歌川国長や小信の作品が数多くつくられ、「おもちゃ絵」として比較的古い歴史を持つていたことがわかります。

最盛期は幕末から明治時代といわれており、大正時代まで出版が続けられました。二千種類ほどがこれまでに製作されてきたといわれますが、紙製の玩具であることから多くは現存せず散逸してしまい、その多くについては不明のままです。

題材は歌舞伎などお芝居にかかわるものが大半で、芝居の名場面を再現したものが多く、「忠臣蔵」などは好ま

れた題材のひとつです。明治時代になると新狂言といわれる「明治座」・「歌舞伎座」・「東京座」等も多く扱われ、また、芝居の場面だけでなく、「上野公園競馬場」や「吉原大門」の東京新名所や明治初期の雰囲気伝える華族の洋式馬車も製作されました。

実際に「立版古」を製作してみると、錦絵の刷り込まれた紙から人物や小さな部品をひとつひとつ切り離していかねばなりません。また、錦絵の枚数によって一枚ものとか三枚ものとか呼ばれており、枚数が増えるほど製作作業が難しくなっていきます。よくつくられたのは三枚ものや五枚ものが多いようです。当館で展示された「狂言碓知盛」・「太閤記」等はいずれも三枚ものです。明治の終わり頃には十枚近いものが出版されたそう

Q & A

猪巻 恵
回答者
民俗担当

ですが、一般には受け入れられず、マニア化した人々が技巧を競い合うことに終始したため、衰退する原因にもなったといわれています。

資料の製作に当たっては、当館展示解説員の皆さんに協力(というより全面的に作ってもらったのですが)を得て完成させることができました。



出来あがりです！



狂言碓知盛 (館蔵)

トピックス

「箏のしらべ」

一月三日文化の日、午後一時半より、本館講堂において伝統芸能実演「箏のしらべ」が盛況のなか開催されました。箏曲演奏家の遠藤千晶さんが、「六段の調」「祭の太鼓」等、九曲を演奏されました。

遠藤さんは、福島市出身で、東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業後、卒業生代表として、皇居内桃華楽堂にて催された皇后陛下主催音楽会に招かれ、御前演奏された方です。現在は国内外で活躍され、東京や福島で後進の指導にもあたっておられます。

曲の合間に遠藤さんの楽しいトークも入り、箏や琴についていろいろなことを知ることができました。例えば、福島県と箏との関係深いお話。「六段の調」を作曲した八橋検校がいわき市平の出身であること、箏の材質として雪深い会津の桐が硬くてよいこと、泉崎村出土の琴を弾く埴輪のことなど、興味深いお話がありました。

また、強く影響を受けた宮城道雄先生や沢井忠夫先生のお話では、伝統芸能で新しい試みをされたことがよくわかり、いいものはきつと残るとい言葉が印象的でした。

後半では、一度も箏に触れたことのない会場の子どもさんや大人の方に、実際に箏を体験していただき、簡単に音が出ること、力があることなどわかりやすく説明されました。

心に染み入る名演奏だけでなく、名トークと気さくなお人柄に遠藤千晶さんのファンも増え、箏を身近に感じられるようになったのではないのでしょうか。

当日は、「菊と遊ぶ」をテーマに小原流生け花が博物館を飾り、箏のしらべとともに、まさに日本文化を満喫できる文化の日となりました。



◎今度の春の企画展

「化石芸術」

ドイツ人の古生物学者で、チュービンゲン大学元教授のザイラッハー氏が「化石芸術展」を主宰しています。その展示のコンセプトは、化石や生痕化石および堆積物に見られる奇妙で幾何学的な形態を、自然の造りだした芸術という視点で捉えるものです。このたび、国立科学博物館が日本側の窓口となり、ザイラッハー氏より標本を借用し、日本で「化石芸術展」の開催を希望する博物館で巡回することになりました。

この展示は、自然の造形物を、美的な鑑賞の対象として観るといふ点でユニークです。その上で、そのような形をとるに至った謎を解き明かすという構成となっています。従来行われてきた化石についての説明的な展示から離れ、化石などに知識のない一般の観覧者にとっても、より魅力的で自然に対する興味を喚起するものとなるでしょう。

また、「化石芸術」に合わせ、化石の中でも特に美しい形態や装飾をもつアンモナイトを取り上げ、その進化や生態を展示します。特に本県産のアンモナイト化石をもとに、当時の古環境の復元をこころみます。



中国産ストロマトライト

■企画展（化石芸術）は平成一四年四月（七日）から六月三〇日（日）まで
観覧料（予定）一般・大学生三〇〇円／高校生一七〇円／小・中学生一〇〇円

常設展 歴史・美術テーマ展示

「画題で見る美術 吉祥」

会期 二月四日(火)から三月三日(日)まで

「芝居のなかの人形たち」

会期 二月五日(火)から三月二日(日)まで

講演・講座

◎収蔵資料品展記念講演会

「小平湯天満宮の御宝物」

講師 猪苗代町文化財保護審議委員長
榎原源隆氏

日時 二月一七日(日)午後二時

◎実技講座

「古文書入門 9 近世③」

講師 当館学芸員 酒井耕造

日時 一月二六日(土)午後二時

「古文書入門 10 近世④」

講師 当館学芸員 酒井耕造

日時 二月二三日(土)午後二時

「古文書入門 11 近世⑤」

講師 当館学芸員 酒井耕造

日時 三月二三日(土)午後二時

「わらざつりをつくらう」

講師 技術伝承者 鈴木幸雄さん

日時 二月九日(土)午前一〇時

「おもちゃをつくらう」

講師 展示解説員

日時 三月九日(土)午後一時半

◎一般講座

「福島県の仏像 23」

講師 当館学芸課長 若林 繁

日時 一月一九日(土)午後一時半

「福島の仏像 24」

講師 当館学芸課長 若林 繁

日時 三月一六日(土)午後一時半

◎映画会

「ニュース映画で見る福島の歴史」

講師 当館学芸員 南雲 修

日時 三月一〇日(日)午後二時

金曜講座

場所 講堂 入場無料

二〇〇一年記念特別講座「徳一」

(第三部 世親の道 徳一の道)

◎第一九回

「筑波山 磐梯山 三箱山」

日時 一月一日(金)午後一時半

◎第二〇回

「徳一菩薩道と徳一菩薩号」

日時 一月二五日(金)午後一時半

◎第二一回

「法相宗「もしも」」

日時 二月八日(金)午後一時半

◎第二二回

「はじめに世親ありき」

日時 二月二三日(金)午後一時半

◎第二三回

「願生徳」菩薩道」

日時 三月八日(金)午後一時半

◎第二四回

「清水寺 長谷寺」

日時 三月一五日(金)午後一時半

実演

場所 体験学習室 入場無料

◎「昔語り」

語り部 横山幸子さん

日時 三月二一日(日) 春分の日

語り部 山田登志美さん

日時 三月三一日(日)

*実演は、午前一〇時半からと午後一時からの二回行われます。

常設展無料開放日

*毎月第二・四土曜日は、小・中学生に常設展示室が無料開放されます。(二月二二日・三月二三日は除く)

一・二・三月の休館日

一二月 三日(月)・一〇日(月)・一七日(月)
・二五日(火)
年末年始
一二月二八日(金)～一月四日(金)

一月 七日(月)・一五日(火)・二二日(月)
・二八日(月)

二月 四日(月)・二二日(火)・一八日(月)
・二五日(月)

三月 四日(月)・一一日(月)・一八日(月)
・二三日(金)・二五日(月)